

# 研究協力をお願い

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

肩関節多方向不安定症例の胸郭を含めたX線画像上の運動学的特徴

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2016年1月1日から2021年4月30日までに、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院を受診した肩関節多方向不安定症例(MDI)と診断された症例を対象とします。また、対象群として2019年1月1日から2019年3月31日までに当院にメディカルチェック目的で来院した健常若年者を対象とします。

## 2. 研究目的・方法

Neerら(1980)は、下方のみならず前方または後方に不安定症を有する疾患を肩関節多方向不安定症(multidirectional shoulder instability: MDI)を報告しました。Schenkら(1998)は、発症時期として13歳から19歳に多く、29歳までにMDIを有すると報告しました。要因は、over use、先天的不安定性を有する全身弛緩性や結合組織異常と考えられています。

動揺肩では、挙上時に上腕骨頭の求心位を得られず、slipping現象を生じました(黄ら, 1985)。また、動揺肩では挙上位レントゲン写真から肩甲骨上方回旋不良が多く認められました(建道ら, 2006)。MDI群において肩甲骨面挙上で肩甲骨上方回旋量が減少しました(Jenaら, 2008)。さらにInmanら(1944)は、肩関節運動は個々の関節によって作られる肩複合体の全体的な運動として表現し、肩関節複合体の一部に機能障害がある場合、その他関節が代償することが考えられます。上記の報告から、肩甲骨胸郭関節における肩甲骨運動減少が肩甲骨上腕関節での過剰な運動を生じさせている可能性が示唆されるが、MDI症例における上位胸郭運動を含めて評価した文献は見当たりませんでした。

今回、健常若年者と比較して、肩関節挙上運動時の上位胸郭の運動性低下が肩甲骨上腕関節の運動性過剰に作用することを仮説として立てました。X線撮影像を用いて、MDI症例の肩挙上運動時の上位胸郭運動を含めた挙動を、明らかにすることを目的としました。MDI症例の予定症例数は8名となっています。健常若年者の予定症例数は18名となっています。

## 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「結果通知書の承認日」より、実施医療機関の長の研究実施許可を得てから、2022年12月31日まで。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

2016年1月1日から2021年4月30日までに当院整形外科において、MDIと診断された外来患者データを用いる。評価に関する情報として、患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴）、臨床検査項目（X線画像、MRI画像）、理学所見（疼痛、関節可動域、整形外科的検査、筋力）を調査項目とします。

2019年1月1日から2019年3月31日までに当院にメディカルチェック目的で来院した外来患者データを用いる。評価に関する情報として、患者背景（年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴）、臨床検査項目（X線画像）、理学所見（疼痛、関節可動域、整形外科的検査、筋力）を調査項目とします。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、研究計画及び関連資料を閲覧する事ができますのでお申し出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出下さい。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター

氏名：野口 悠

住所：〒227-8518 神奈川県横浜市青葉区藤が丘2-1-1

電話番号：045-987-6631（内線：3635）

e-mail [yu-noguchi@cmed.showa-u.ac.jp](mailto:yu-noguchi@cmed.showa-u.ac.jp)

研究責任者：野口 悠